

イタリアの高校生における職業的アイデンティティの柔軟性と心理社会的機能

Fusco, L., Sica, L. S., Parola, A. and Aleni Sestito, L. (2022) "Vocational Identity Flexibility and Psychosocial Functioning in Italian High School Students," *International Journal of School & Educational Psychology*, Vol. 10, No. 1, pp. 144-154.

東京大学大学院博士後期課程 石井悠紀子

1 はじめに

現代社会は、変化の激しい時代であり、ここ数十年のキャリアおよびキャリアカウンセリング研究では、柔軟性を持つことが個人の成長のために重要であると考えられている（例えば Van Vianen, De Pater and Preenen 2009 など）。本稿で用いる柔軟性とは、積極的に代替案を検討し、自分自身のコミットメント（選択、価値観、欲求、興味など）が安定したものではなく、将来的に変化する可能性があることを認識することである（Porfeli et al. 2011）。本研究を含めたこれまでの研究（例えば Porfeli et al. 2011 など）で、柔軟性の高さは「自分の仕事の興味は、今後変化する可能性が高い」「私が仕事に求めるものは、今後変化していくと思われる」「私は今後、キャリアの目標が変わるだろう」「私のキャリア選択は、予想と異なる結果になるかもしれない」「キャリア選択をする前に、もっとたくさん学ぶ必要がある」の5つの項目に対する当てはまりの良さで評価されている。

柔軟性は、ライフステージによって異なる影響と意味を持つ可能性がある。イタリアの青年を対象に実施された最近の研究（Fusco et al. 2019）では、職業上の柔軟性は、未来志向（個人の主観的な未来観）やレジリエンス（回復力）といったポジティブな発達指標と負の関連があることが示された。また Van Vianen, De Pater and Preenen (2009) は、柔軟性がキャリアの優柔不断と関係し、それが後に望ましくない発達の結果をもたらす可能性があるとして指摘した。これらの研究知見から、著者らは職業上の柔軟性がネガティブな結果と関連するのではないかと問題提起している。さらに、著者らは、調査を行ったイタリアの失業率が約10%、中でも若者の失業率は31%に達している（Avvenire 2018）という経済状況を踏まえ、こう

した状況下の若者が必要だと感じる柔軟性は、無職への恐れ、将来の計画を立てられないこと、個人目標をコントロールできないことと関連していると考えた。

本論文の目的は、特に失業や雇用の不安定さを特徴とする南イタリアにおいて、職業上の柔軟性と青年期の心理社会的機能との関係を調査することである。心理社会的機能とは、人々が日常生活の課題を遂行し、自他にとって満足のいく活動を行う能力を指す（Mehta, Mittal and Swami 2014）。本論文では、ポジティブな心理社会的機能の指標として、幸福感とエージェンシーを、ネガティブな機能の指標として、内在化症状と外在化行動を用いている。エージェンシーとは、社会学的・心理学的構成概念であり、意図的で目標志向的である能力を指す（Bandura 1989）。日本語では主体性と訳されることが多い。エージェンシーは、キャリア目標の達成、高い給与、仕事への満足度と関連することが明らかになっている（例えば Côté 2002 など）。本論文は、類似の状況で働く教育者やキャリアカウンセラーにとって、キャリアへの柔軟なアプローチの促進が、高校生に何らかの害を与えているのか、それとも単に労働市場の現実へのアクセスに備えるためなのかを理解するために重要である。

2 研究概要

調査はイタリアの高校生403名（男子165名、女子238名）を対象に行われた。参加者の平均年齢は18.47歳（SD=0.73）であった。アンケートは授業時間に実施された。アンケートは、レジリエンス（項目例：「起こりうるすべてのことに取り組めると思う」）、未来志向（項目例：「将来の生活を考えると希望が湧いてくる」）、職業上の柔軟性（項目例：「私が仕事に求めるものは将来変わるだろう」）、職業的自己不信（項目例：「私は自分に合ったキャリアを見つけること

ができるか疑問である)], 幸福感 (項目例:「私は、自分にとって多くのことが個人的に表現できるものだと感じる)], エージェンシーの指標として、人生の目的 (項目例:「人生は常にエキサイティングに思える」) および内的統制の所在 (Internal Locus of Control) (項目例:「勉強量と成績は直結している」) で構成された。加えて、不安 (項目例:「最近数週間、全体的に恐怖感を感じた」) および抑うつ (項目例:「最近数週間、関心のなさを感じた」) から構成された内在化症状、身体的攻撃性 (項目例:「過去6カ月間に、人を殴りたくなった」), 社会的攻撃性 (項目例:「過去6カ月間に、誰かの気持ちを傷つけようとした」), 規則違反 (項目例:「過去6カ月間に、万引きした」) から構成された外在化行動および年齢などのプロフィールが調査された。

まず、著者らは相関分析により、柔軟性と各変数の関連性を検討した。柔軟性とポジティブな心理社会的機能は、負の関連が示され、柔軟性とネガティブな心理社会的機能とは正の関連が示された。このことは、柔軟性がポジティブな心理社会的機能と負に関連するという著者らの仮説を支持するものであった。著者らは、調査対象となったイタリアの雇用市場の不確実性から、柔軟性が若者の現在の生活にとって危険な要素である可能性があることを考察している。

次に、変数間のより具体的な関係を特定するため構造方程式モデリングが用いられた。主な結果として、職業上の柔軟性が、エージェンシーを有意に負に説明し、エージェンシーは、幸福を正に説明し、不安および抑うつを負に説明した。著者らは、エージェンシーの能力の開発が、将来起こりうる多くのキャリア選択肢を全面的に受け入れる態度 (柔軟性) によって阻害される可能性があることを指摘した。

本論文の限界点は、質問紙を用いた定量的なアプローチしか行われていない点である。今後、質的なアプローチを行うことも有効である。また、本論文の結果は、サンプルの社会経済的背景によって部分的に説明される可能性がある。さらに、柔軟性は、発達の後期段階において適応的な価値を示す可能性があるため、縦断的調査が必要である。

3 おわりに

本論文は、キャリア再考のポジティブな側面として

認識されている職業上の柔軟性が、若者の労働市場へのアクセスが不確実で予測不可能なイタリアの状況において、高校生の心理社会的幸福に潜在的に有害な影響を及ぼすことを明らかにした。この結果は、10代の若者と関わる大人、教師、キャリアカウンセラーに、将来の計画を立てる際に柔軟であることの必要性が強調されていることについて警告を与えるものである。特に、経済成長率が低く、将来への希望が無いと認識される状況において、柔軟性の促進が、青年にとって諸刃の剣として作用する可能性があることを述べている。このように、本論文は、従来ポジティブに捉えられてきた柔軟性の負の側面を検証することで、より効果的なキャリア支援策の開発に示唆を与えることができたと考えられる。

参考文献

- Avvenire (2018) "La disoccupazione giovanile scende sotto il 10%," (2018, October 1). (<https://www.avvenire.it/economia/pagine/disoccupazione-giovanili-ai-minimi-storici>)
- Bandura, A. (1989) "Human Agency in Social Cognitive Theory," *American Psychologist*, Vol. 44, No. 9, 1175-1184.
- Côté, J. E. (2002) "The Role of Identity Capital in the Transition to Adulthood: The Individualization Thesis Examined," *Journal of Youth Studies*, Vol. 5, No. 2, pp. 117-134.
- Fusco, L., Sica, L. S., Boiano, A., Esposito, S. and Sestito, L. A. (2019) "Future Orientation, Resilience and Vocational Identity in Southern Italian Adolescents," *International Journal for Educational and Vocational Guidance*, Vol. 19, No. 1, pp. 63-83.
- Mehta, S., Mittal, P. K. and Swami, M. K. (2014) "Psychosocial Functioning in Depressive Patients: A Comparative Study between Major Depressive Disorder and Bipolar Affective Disorder," *Depression Research and Treatment*, Vol. 2014, 302741.
- Porfeli, E. J., Lee, B., Vondracek, F. W. and Weigold, I. K. (2011) "A Multi-dimensional Measure of Vocational Identity Status," *Journal of Adolescence*, Vol. 34, No. 5, pp. 853-871.
- Van Vianen, A. E. M., De Pater, I. E. and Preenen, P. T. Y. (2009) "Adaptable Careers: Maximizing Less and Exploring More," *Career Development Quarterly*, Vol. 57, No. 4, pp. 298-309.

いしい・ゆきこ 東京大学大学院教育学研究科博士後期課程3年、日本学術振興会特別研究員 (DC2)。主な論文に "Positive Emotions have Different Impacts on Mood and Sympathetic Changes in Crying from Negative Emotions," *Motivation and Emotion*, Vol. 45, No. 4, pp. 530-542 (共著, 2021年)。教育心理学専攻。